

石川県立山中漆器産業技術センターの令和元年度管理状況

施設所管課	商工労働部経営支援課
施設管理者	(公財) 山中漆器産業技術センター 理事長 徳田 博
指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日
中期経営目標 (H30～R4)	<ul style="list-style-type: none"> ① 基礎コースの入学志願倍率は、引き続き1.2倍以上を維持します。 ② 専門コースの定員充足率は、80%以上を維持することを目指します。 ③ 利用者アンケートによる満足度において、利用者サービス、施設の維持・管理とも、95%以上を維持します。 ④ レンタル工房入居率100%を目指します。

1 中期経営目標達成に向けたサービス向上・利用促進等の取組

(1) 実績

項目	実施内容
① サービス向上・ 利用促進	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度から研修カリキュラムに追加した「職人養成トレーニング」を引き続き実施することにより、研修生の挽物轆轤技術向上を図った。 ・センター卒業生等が自立に向けた実績を積むための施設として「レンタル工房」を運用。入居率100%を維持した。 ・一般客を対象に、木地挽きろくろ体験や施設見学ガイドを実施した。 ・土日祝日も開館し、開放機器等使用の利便性向上に努めた。 ・利用希望の多い3Dプリンターやレーザーカッター等パソコン周辺機器の使用方法について随時指導し、漆器事業者・職人の技術向上を支援するとともに、利便性の向上に努めた。
② 広報活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研修生の募集について、HPの充実を図るとともに、Facebookで研修の様子等を定期的に発信したほか、広報番組「ぶんぶんセブン」への出演、MROラジオやメールマガジン、新聞広告「広報いしかわ」を活用し広く周知した。特にFacebookにおいては、更新頻度を維持できるようにした。 ・従来から行ってきた地元高校生向けの体験会を、28年度より「オープンキャンパス」として対象を広げて実施。R1年度は県内外から57名の参加を得た。 ・専門コースへの進学率向上を目的に、進学の特典や専門コース卒業後の就職状況を説明する進学説明会を昨年度に引き続き開催したほか、卒業後の就職支援策として、産地内の状況把握や関係作りのための工房見学を随時行った。 ・加賀市、金沢市及び県外では大阪事務所において卒業作品展を行い、同センターのPRや山中漆器の魅力発信を行った。 ・土日祝日も開館し、一般客に対し木地挽きろくろ体験や施設見学のガイドを行い、伝統的山中漆器の理解向上に努めた。 ・近隣の小中学校を対象とした轆轤や蒔絵の体験教室を増やし、伝統的山中漆器への理解向上と次世代後継者のための種まきに努めた。 ・挽物轆轤や蒔絵の体験を行う体験教室を開催し、金沢大学留学生、外国教育機関等、幅広い年齢や国籍の方の参加を得た。 ・2019年に初開催された山中温泉ものづくり体験イベント「around」(主催：around実行委員会)と連携し、山中漆器の広報普及を行った。

(2) 令和2年度における取組内容の見直し等

実施内容
<p>(1) 研修生募集のPR強化 「ILAC石川・東京・大阪」と連携し、研修生募集のPR強化に取り組む。 ILACスタッフへセンターについての情報を周知。県外からのUIターン希望者に対して、センターについての情報提供を行うことにより、基礎コース志願者の増加を図る。</p>
<p>(2) 研修生の施設利用の利便性向上 研修生の土日祝日における施設利用を可能とし（事前予約制）、利便性向上を図る。</p>

2 中期経営目標の進捗状況

測定指標	H26～28 平均 (基準値)	H29年度	H30年度	R1年度	前年度比	基準値比	R4年度 (目標値)
(1) 基礎コース入学 志願倍率(倍) (定員5名)	1.3	1.6	2.8	0.6	21.4%	46.2%	1.2
(2) 専門コース定員 充足率(%)	76.7	90.0	80.0	60.0	-20.0 ^{ポイ}	-16.7 ^{ポイ}	80.0
(3) 利用者アンケート における満足度							
利用者サービス(%)	99.3	100.0	99.1	98.9	-.20 ^{ポイ}	-.40 ^{ポイ}	95.0
施設の維持管理(%)	98.8	100.0	99.1	98.9	-.20 ^{ポイ}	.10 ^{ポイ}	95.0
(4) レンタル工房入居率 (%)	—	—	100.0	100.0	0	#VALUE!	100.0

※基準値は中期経営目標における基準値

<利用者数、貸館稼働率など利用指標に係る増減理由>

指 標	対前年度増減理由	対基準値増減理由
基礎コース入学 志願倍率	景気動向により求人が増え、就職先の選択肢が広がったことから、挽物轆轤の職人を志す方が減少した。	同左
専門コース定員 充足率	研修生へ進学にあたっての個別相談をきめ細かに行うとともに、進学説明会を開催するなど、専門コースの魅力を伝えていったが、研修生各個人の様々な理由に伴い、進学率が減少した。	同左
利用者アンケート (利用者サービス)	研修生から、授業のない土日祝日も含め、轆轤をもっと使いたいという要望があり、満足度が下がった。	同左
レンタル工房入居 率	工房2室ともに、H30年4月入居者が継続利用（利用2年目。最大3年利用可能）	30年度から運用開始

<利用者アンケート結果>

・ろくろ研修事業（令和2年3月実施 有効回答数14名）

項目	回答			
	良い	概ね良い	やや悪い	悪い
利用者サービス (%)	71.5%	21.4%	7.1%	0.0%
施設の維持管理 (%)	57.2%	35.7%	7.1%	0.0%

・施設開放事業（令和元年度随時実施 有効回答数20名）

項目	回答			
	良い	概ね良い	やや悪い	悪い
利用者サービス (%)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
施設の維持管理 (%)	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

・漆芸教室事業（令和2年3月実施 有効回答数16名）

項目	回答			
	良い	概ね良い	やや悪い	悪い
利用者サービス (%)	75.0%	25.0%	0.0%	0.0%
施設の維持管理 (%)	81.3%	18.7%	0.0%	0.0%

・木地挽きろくろ体験事業（令和元年度随時実施 有効回答数48名）

項目	回答			
	良い	概ね良い	やや悪い	悪い
利用者サービス (%)	95.6	4.4	0.0	0.0
施設の維持管理 (%)	93.3	6.7	0.0	0.0

3 施設等の維持管理

項目	実施内容
(1) 清掃	玄関・展示室・トイレ等の共用部分は、清掃業者に外部委託している（週1回）。事務室は、職員が実施（週1回）。研修関連の部屋は、研修生が研修終了後実施（毎回）。
(2) 設備保守点検	空調設備管理、エレベーター保守管理、消防設備管理、電気設備管理、地下オイルタンク点検を全て業者に外部委託しており、それぞれ適切な時期に保守点検を行っている。
(3) 植栽維持管理	植栽業者に外部委託しており、除草、雪吊り等の対策を取っている。
(4) 警備	民間警備保障会社に外部委託しており、施設内に防犯装置を備え付けている。
(5) 小規模修繕	設備等が故障した場合は、研修等に支障が生じないように速やかに修繕を行っており、研修生や利用者の利便性、安全確保に努めている。

4 管理運営体制

項目	実施内容
(1) 緊急時の対応・安全管理などの危機管理	緊急連絡網を策定し、非常時に備えた危機管理体制を整えている。また、年1回避難訓練も実施している。
(2) 個人情報の管理状況	個人情報の保護に関する法律等関係法令並びに基本協定書に定める「個人情報の取扱いに係る特記事項」を遵守している。

5 収支状況

(1) 使用許可等の状況

(単位：件)

項目	許可件数	不許可件数	不許可理由
施設利用	8		
開放機器使用	181		
合計	189	0	

(2) 使用料の収入実績（利用料金の収入及び減免の状況）

(単位：千円)

項目	収入額	減免額	減免理由
施設使用	434	9	4件(山中漆器連合協同組合の使用2件、石川県産業創出支援機構の使用2件)
開放機器使用	104		
合計	538	9	

(3) 収支決算

(単位：千円)

収入		支出	
指定管理料	41,087	人件費	16,788
入学手数料等徴収業務委託料	92	委託費	2,873
授業料収入	3,543	光熱水費	1,862
使用料収入	538	修繕費	1,136
		その他管理費	3,999
		輻輳研修事業費	18,602
合計 ①	45,260	合計 ②	45,260
収支差額 ①－②	0		

6 利用者からの意見、苦情、要望

年 月	内 容	対 応
令和2年3月	漆芸教室の金銀粉のバリエーションが欲しい。粘土が若干古い。	講師と相談のうえ、予算的に可能な範囲で対応を検討する。

7 事故、故障等

年 月	内 容	対 応
令和1年5月	消防設備の定期点検で自動火災報知設備に不良箇所発見。	感知器を取り替え。
令和2年3月	機械式空調用冷温水発生器が不良。	修理した。

8 その他報告事項など

--

9 評価結果

評価項目	評価	所見（工夫・改善点）
(1) 中期経営目標の達成に向けたサービス向上・利用促進等の取組	B	<ul style="list-style-type: none"> ・漆器に関する様々なスペシャリストを講師として招き、研修生に対して高いレベルの研修を行っている。特に所長（人間国宝）である川北良造氏自ら、所定講義回数以上の技術指導を積極的に実施している。 ・児童生徒や一般を対象とした見学や体験教室等を積極的に実施し、山中漆器の普及啓発に努めている。 ・組合員が自分の専門以外の漆に関する技術を習得する漆芸教室を、産地からの要望に応じた見直しを加えながら開催し、資質向上に努めている。 ・入学案内書は県内の高校へ持参するとともに、研修内容について詳細な説明を行っている。また、地元高校生のインターンシップ受入や、オープンキャンパスを実施し、入学志願者の増に努めている。 ・入学に関する問い合わせを受けた場合には、必ず事前に同センターの施設見学やろくろ体験を行うよう依頼しており、「漆器づくり」の難しさ、厳しさを知った上で、それでも志望する研修生のみを受け入れる体制を構築している。 ・地元の漆器事業者が施設・開放機器をより利用しやすいように、センターを土日祝日も開館するとともに、開館開放時間を週1回（火曜）、午後5時から午後9時に延長している。 ・研修生や施設利用者を対象としたアンケートを実施し、サービスの維持向上等に活用している。
(2) 施設等の維持管理	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挽物轆轤研修事業を円滑に進めるために、設備の保守点検を定期的に行うなど、適切な維持管理に努めている。 ・設備等が故障した場合は、研修等に支障が生じないよう速やかに修繕を行っている。 ・照明器具のLED化を図り、環境に配慮した管理に努めている。
(3) 管理運営体制	B	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急連絡網を策定し、非常時に備えた危機管理体制を整えている。 ・ノウハウをもった職員を適切に配置することで、漆器業者の相談や、見学・体験者への対応といった点を含め、適切な管理運営を行っている。 ・研修生、相談者の個人情報保護に留意している。
総合評価	B	<ul style="list-style-type: none"> ・山中漆器産業の育成及び支援を行うことを目的として、適切な管理運営を行っているほか、山中漆器に関心のある県民に対しての普及啓発事業も積極的に行っている。

○ 評価基準

- A（優）：仕様書等に定める水準を大いに上回っており、その結果、優れた実績をあげている
- B（良）：仕様書等に定める水準を上回っている
- C（可）：概ね仕様書等に定める水準どおり実施されている
- D（不可）：仕様書等に定める水準を下回っており、改善を要する部分がある

○ 総合評価

- A（優）：優れた管理運営がなされており、かつ、十分な実績をあげている
- B（良）：優れた管理運営がなされている
- C（可）：適正な管理運営がなされている
- D（不可）：改善が必要である

10 助言・指摘事項

--